

<b>災害環境研究プログラム 全体</b>
-----------------------

<b>委員会からの主要意見</b>
-------------------

現状についての評価・質問等
---------------

- |  |
|--|
| <p>○従来の研究グループや研究活動と成果を活用することで、短期間で研究プログラムを立ち上げ、戦略的に研究を進めている。</p> <p>○福島や東日本大震災の被災地域の復興に貢献するだけでなく、災害環境学の確立に大きく貢献すると考えられる。福島の地元機関等との連携についても評価できる。また、熊本地震における対応の早さも評価できる。</p> |
|--|

今後への期待など
----------

- |  |
|--|
| <p>○得られた研究成果、科学的知見を国内のみならず、世界に向けても積極的に発信し続けて欲しい。</p> <p>○災害への対応策や将来予測、住民との合意形成などの具体的な社会実装に向けた提言の発信という点でも、国立環境研究所への期待は大きい。</p> <p>○東北関連の研究については、地元大学や関係省庁、他研究機関との役割を明確にしつつ、今後も連携を進めていただきたい。</p> |
|--|

<b>主要意見に対する国環研の考え方</b>
------------------------

<p>全体的に高い評価を頂き、ありがとうございます。今後も、福島県をはじめとする東日本大震災の被災地域の復興に貢献するだけでなく、災害環境学の確立を目指してプログラムを推進します。</p>
--

- |  |
|--|
| <p>①得られた研究成果や科学的知見の発信は極めて重要であり、現在もかなりのエフォートを割いて取り組んでいますが、社会のニーズからすると必ずしも充分ではありません。今後、国内外に向けた戦略的な成果・情報発信を更に進めるとともに、他機関と連携した発信にも取り組む予定です。</p> <p>②福島県、JAEA をはじめとする他機関との連携を強めて、研究成果の総合的な取りまとめと発信、環境回復と復興に向けた学術面での提言づくりや政策支援等に取り組めます。また、社会との連携を意識して、成果・情報発信、社会対話、社会協働を進めていきたいと考えています。</p> <p>③福島県環境創造センターを核として、関係する他機関との研究連携ネットワークを構築し、それぞれの機関の役割を明確にしつつ、各々の強みを活かして、様々な形での連携を進めます。</p> |
|--|